

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 22 年 6 月 17 日 (木) 10 : 45 ~ 12 : 20

場 所 合同庁舎 4 号館 1214 会議室

出席者 川端大臣、平岡副大臣、津村政務官、相澤議員、本席議員、奥村議員、白石議員、
今榮議員、青木議員、藤田統括官、岩瀬審議官、大石審議官

議事概要

議題 1 . 科学・技術ミーティング in 仙台の準備状況について

<加藤(善)参事官説明>

本席議員 この相澤議員のパワーポイントの絵を見ていて、ちょっと 2 点、グリーン・イノベーションは今回さらに絞り込まれるなら絞り込まれたほうを方策のところに挙げたほうが、誤解が少ないのではないかと思います。

それから、第 2 点は、これはちょっと一般的なことですけれども、基礎研究の論文被引用度云々は大体トムソン・ロイターのデータ使っているのですが、もう 1 つ、ヨーロッパのエルスピアがやっているスコープスだったか何かありまして、これは対象とするジャーナルが違うので、やはり両方見て、これはいいんですけれども、今後のものとしては両方をやはり内閣府としてはフォローするという形にしたほうがいいのではないかと思います。

相澤議員 私が説明する資料のところ、これに加えて、科学・技術対話、この話も入れておいたほうがいいのではないかなと思います。

書き方が多少問題ではありますが、昨日の基本専調で、有松参事官の名前で出たメモ、あれが骨子をまとめているのではないかなと思うので、1 枚紙、それをデザインしてもらって……。

議題 2 . 科学・技術重要施策アクション・プランについて

(現在調整中のアクション・プランの検討のための事前の意見交換であるため非公開)

議題 3 . 平成 23 年度資源配分方針について

<須藤参事官説明>

奥村議員 本質的ではなく、単に言葉の問題ですけれども、3ページ目の3のその他の重要な取組、その他というのは、そこはやはり重要なんですね。ですから、2が重点的に推進すべき課題であるし、1が最重点課題、ここもこれに合わせれば、システム上の重要な課題とか、と言ったほうがいいんじゃないですか。きちんと表現したらまずいことありますか。

須藤参事官 先生がおっしゃっていただいたのは、研究開発システム改革に向けたその他の重要な取組とか。

奥村議員 その他のではなくて。

須藤参事官 研究開発システムの改革に向けた重要な取組。

相澤議員 その他というのは、いつでもそういうふうの問題になる表現なので、この内容から考えると、研究開発システムということで、言い切ってよろしい内容ですね。

奥村議員 2番目がプログラムなので、ちょっと似つかわしくないとえば似つかわしくないので、一歩上の話がシステムで、下2つがプログラムの話だね。

相澤議員 共通の表現が.....。

相澤議員 研究開発システムと言い切ってしまうにはちょっと問題かもしれませんけれども。

須藤参事官 研究開発システムにかかる取組とか、システムを入れるかどうか。研究開発にかかる取組、研究開発システムにかかる取組とか、そういう表現ではいかがかと思います。そういう方向でちょっと相談させていただいてよろしゅうございますか。

相澤議員 少なくともその他を取るよという事で、検討していただきたいと思います。そのほかいかがでしょうか。

青木議員 細かいことなんですけれども、2ページの若手研究者育成のところ、産学官が連携したキャリアパスの多様化と書いてあって、このキャリアパスの多様化というのは、多分大学内のプロジェクトマネージャーみたいな人の育成とか、そういうのも入っていたらと思うんですけれども、それを考慮するために、産学官連携を含めたキャリアパスの育成とか、いかがですか。連携しなければいけないというわけではないですよね。

本庶議員 これは具体的なプロジェクトが念頭にあって、つまり大学院学生が早くからインターン生とか何とかいう形で、産学連携を通じて将来自分の最もふさわしいキャリアを選ぶような、そういう場を構築していく。そういうふうなことを念頭に置いているので、と私は理解したんですが。

青木議員 私はリサーチマネージャーみたいなものを育成していくというのが含まれていると思っていたので、それなら結構ですけれども。

相澤議員 内容は、今、本庶議員が言われたような、そういうようなプログラムの推進ということが念頭にあるということです。

青木議員 私が混乱していたので、わかりました。

相澤議員 そのほかよろしいでしょうか。今日は、総合科学技術会議の本会議の日程は未定でございますので、この方針を基本的には了承いただいたという形にさせていただきます。

議題4 . 「国民との科学・技術対話」の基本的取組方針（案）について

<津村政務官、相澤議員説明>

本庶議員 1枚ものではなくて、この厚いほうですけれども、赤字で書いてあるのが、アンケー

ト調査が2回も出てくるところがあるのですが、これは1回でいいのではないかと。

それから、2番目に出てくるところ、受け手側を考慮しない云々は、これはちょっとあまりにもこういう文章にはなじまないことなので、これは要らないのではないかと思います。ですから、アンケート調査は1回でいいと。なおかつこの2枚目の赤のところはやや表現上は、あまり上品ではないので、これは削っていいのではないかと。ちょっと文言は考えていただいて。

白石議員 私も全く賛成です。こちらの3ページのほうのもので言いますと、2ページ目のアンケート、これは要らないのではないかと思います。最後のほうにアンケート調査をやると書いていますから、1回でいいと思います。

それから、3ページ目の国民からの意見や感想、期待に対して耳を傾けることも必要、文章ひどいですよね、この文章。何かこう聞いてやるという感じでね。こんな文章を書くくらいだったら取ったほうがいいと僕は思います。

それから、最後の受け手を考慮しない云々は、全く本庶先生と同じです。何でこんなもの書いてくるのかって、僕は正直言ってここの全部赤は取っちゃっていいのではないかという気がします。

それから、短いほうで言いますと、「必ず」はやはりまずいですね。アンケートによってとか、何かあまり義務化しないようにしておかないと、予期しない自体になったときにどうなのだと。

藤田統括官 この点、特に、アンケートの点は、これは義務化するかどうかは、先生方のご判断ですので、そこはお任せさせていただきますが、2ページ目と3ページ目のところ、2ページ目は評価の際に、アンケート調査の結果も参考にするという趣旨を、関係府省が公募要領等で本件を入れるときに、そういう趣旨のことも入れたらどうかということと、それから実際に取組のときにはアンケート調査を行うということなので、そのところはうまく1カ所、例えば2ページ目のところに書いてしまえば、そこに収まるという感じであればそれで差し支えないだろうと思います。

それから、3ページ目の上の国民からの意見や感想、云々というのは、表現ぶりはいかがかであろうかと思いますが、まさに言いつばなしでは駄目なので、双方向だという趣旨を明確にということなのではないかというように忖度をさせていただきます。

それから、受け手を考慮しない云々というのは、昨日も専門委員の方がどなたかおっしゃっておられましたけれども、要は小学生なり相手に応じて、中身をやはり工夫する必要があるということだろうと思いますので、こういうネガティブな言い方はともかくとして、相手を考慮して、その内容等について工夫するんだというような趣旨は入っていてもいいのではないかと。ですから、その本指針の趣旨云々の2行のところをもうちょっと工夫すれば何とか趣旨は入るのかなというふうな気がいたします。

白石議員 それならいいのですけどね。僕は文章の問題を言っているのだから。

相澤議員 それでは、まず1枚紙のほうからですが、こちらについては、「アンケートを必ずとり、」というところは、「アンケートにより、」ということによろしいでしょうか。それでは、あとのところはよろしいですね。こういうような表現で。

それでは、数枚の閉じたほうにまいりますと、1ページ目のこの赤の修正は、これは特に問題はありませぬね。それでは2ページのこの表現がなかなか難しいですが、ここにアンケートの表現とあとのほうからアンケートが出てきますが、主たるところはむしろこの初めのほうなのですね。ということで、その場合に、この表現はよろしいですか。ここは必ず、という言葉は入ってないわけなので、これだったらよろしいでしょう。

有松参事官 記載し、確認する、ですから。

相澤議員 確認するという事は、内容を確認するのであって、活動を。

有松参事官 実施にあたってはアンケート調査を行うことを記載し、ですので、これは公募要領に書かれますよね。そうするとそれはやらなければならないということですよ。

奥村議員 まさに実施を助ける機関があるわけでしょう。そこがフォーマットをつくって、参加者に配ってやればいだけで、研究者にそんなに負担になるんですか。そんな難しいアンケートを配る必要はないわけです。何が面白かったとか、どんなことが面白かったとか、集めればいだけだというふうに私は感じるんですけど。そんなに負担感があるものなのですか。

本席議員 アンケートというのは、紙を配って終わりではないですよ。集計して、それを分析しなければいけない。それを誰がやるか。それをオーガナイザーがきちんとやって、こういう結果でしたよと。それはやった人に言ってくれるならいいけれども、何百枚を全部見て、自分で集計するというのは、それは大変です。

奥村議員 それこそ支援機関が当然やるべきですよ。

本席議員 そういう形になっていけばいい。

相澤議員 支援機関がしっかりとまだ定まらないところをこうやって普及させようとしているので、ということなので、いろいろと配慮はしているのですが、ただ今の書き方で、フォーマットに入ってくるということ自体は、そういう意味で特に心配要らないんじゃないかと思います。

この2ページ目のところの文章はそのままとすると。

それから、3ページ目の「耳を傾ける」という文章は、この意を受けて、ちょっと事務局で少し修文していただいて、意味するところを残すということにさせていただきます。

それから、その下のほうの赤の「受け手側を考慮しない活動」云々は、これはちょっとかなりネガティブな書き方なので、国民に広く理解が得られるようということにかかわりながら、もう少しこれを表現してください。

藤田統括官 例えば国民に広く理解が得られるよう、聞き手、対象等を踏まえて創意工夫をすることか、何かそんな表現で。

相澤議員 そういうような表現に。

藤田統括官 それとさっきのところもしアンケートについて、研究者に飛んでくるようなことではないようにするというのであれば、(2)の大学研究機関のところアンケート調査は支援機関である大学研究機関がするのだとか、そういう趣旨を盛り込むということでは駄目ですか。

有松参事官 細かくなり過ぎているのではないですか。全体として支援サポートすると書いている中で読んでいただくほうが。

藤田統括官 それで心配しないならいいのですけれども。だって、先生方が心配だっておっしゃられるから。

相澤議員 先ほどのようなところで、アンケートでこういうことを確認してくださいよということぐらいは入っていて、あとはそれこそ支援体制との絡みで考えていただければいいと思います。

それでは、最後のページ、次のページの「博物館や科学館」、これが入るのはこれは特に問題ないと思いますが、これはよろしいですね。

青木議員 どこにどうやって入れるかわからないですけども、昨日の発言の中の1つで、研究

を利用できそうな人に呼びかけるという意見があったと思ったのですが、それはこの青い字で書いてあるので、「研究の意義・課題」についての対話というので含んでいるというふうに。ステークホルダーを見いだして呼びかけましょうという意味、発言だったと思うのですが、

相澤議員　　この青の「研究の意義・課題」に含まれていると考えていただいて、あまり細かく記載すると、非常に難しいことになってくるのではないかと思います。ここで、含まれると考えるとよるしいのではないかと思います。

(以 上)